

福岡県米麦大豆生産改善速報 第4号

令和3年9月9日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

水稻の生育概況と成熟期予測

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	7月27日～9月3日 (39日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	27.1	31.8	23.7	178	1189
前年差(比)	-1.9	-2.7	-1.6	65%	477%
平年差(比)	-0.4	-0.6	-0.3	81%	414%

注) 平年は1991～2020年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

7月27日～9月3日の平均気温は平年より0.4℃低く、日照時間は19%少なく、降水量は414%と著しく多く、寡照・多雨で経過した。特に8月12日～14日は集中豪雨となり、3日間の降水量は605mmとなった。出穂期は平年並～2日早かった。全穂数は平年と比べ農産部では「夢つくし」で3%多く、「元気つくし」と「ヒノヒカリ」で4～5%少なく、筑後分場では「元気つくし」で平年並、「ヒノヒカリ」で8%多く、「実りつくし」で6%少なかった。今後の気温が平年並で経過した場合、成熟期は平年並～4日早いと予想される。

3. 農林業総合試験場における水稻の出穂期、穂数と予想成熟期

調査場所	移植期	品種	年次	穂肥施用時		主稈葉数(L)	全穂数(本/m ²)	出穂期(月日)	予想成熟期(月日)
				カラー スケール	葉緑 素計				
農産部	6/10	夢つくし	本年	3.7	37.0	12.4	390	8.6	9.11
			前年比(差)	-0.2	-5.0	-0.6	94	-6	-2
			平年比(差)	-0.1	-2.7	-0.8	103	-2	±0
	6/18	元気つくし	本年	3.4	32.3	13.5	346	8.17	9.24
			前年比(差)	-0.4	-5.6	+0.3	96	-4	-2
			平年比(差)	-0.4	-5.2	+0.2	96	-2	-2
6/18	ヒノヒカリ	本年	3.4	31.3	13.4	357	8.26	10.6	
		前年比(差)	-0.1	-5.9	-0.2	97	-1	±0	
		平年比(差)	-0.2	-5.1	-0.3	95	±0	±0	
筑後分場	6/18	元気つくし	本年	3.8	35.0	13.7	428	8.18	9.26
			前年比(差)	+0.1	-4.5	+0.7	115	-1	±0
			平年比(差)	+0.3	-1.4	+0.3	101	±0	±0
	6/18	ヒノヒカリ	本年	3.7	33.4	13.9	441	8.25	10.6
			前年比(差)	+0.4	-0.1	+0.3	106	±0	+1
			平年比(差)	+0.4	+0.3	+0.1	108	±0	±0
6/18	実りつくし	本年	3.4	30.8	14.2	356	8.28	10.11	
		前年比(差)	+0.5	+1.2	-0.2	96	-3	-4	
		前6年比(差)	+0.3	-0.1	-0.5	94	-2	-4	

注) ①平年値は過去10か年の平均値。

②カラースケールは群落葉色値、SPAD値は葉緑素計(SPAD-502)による上位展開第2葉の測定値。

③熟期は9月4日以降の気温が平年並で経過した場合の予測値。

④この値は暫定値で、今後変更することがある。

4. 今後の対策（水稻）

（1）病虫害防除

病虫害は発生状況に応じて適切に防除を行う。特にいもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類は、ほ場での発生状況の把握に努め、適期に防除する。

（2）水管理

出穂期～開花期は最も水を必要とする時期なので、ほ場が乾燥状態にならないようにする。その後は、落水時期まで間断かん水を行う。

台風襲来等で強風が予想される場合は、深水で稲体を保護し、脱水による青枯れや白未熟粒の発生を防止する。

落水時期は収穫前7～10日頃を目安とする。早期落水は、登熟障害により収量、品質が低下するため行わない。

（3）適期収穫

収穫時期は出穂後の積算気温を参考に、黄褐色籾比率や籾水分を確認して決定する。特に本年は降雨が多いため、刈り遅れにならないよう留意する。

5. 農林業総合試験場農産部における大豆（フクユタカ）の開花期

大豆の開花期は、7月12日播種で8月23日と平年より4日遅く、7月26日播種で9月4日と平年より5日遅かった。

播種期	開花期	平年差
7月12日	8月23日	+4
7月26日	9月4日	+5

注）平年値は平成23年～令和元年の9か年平均値
（令和2年は播種期が遅く平均値からは除去）

6. 今後の対策（大豆）

（1）病虫害防除

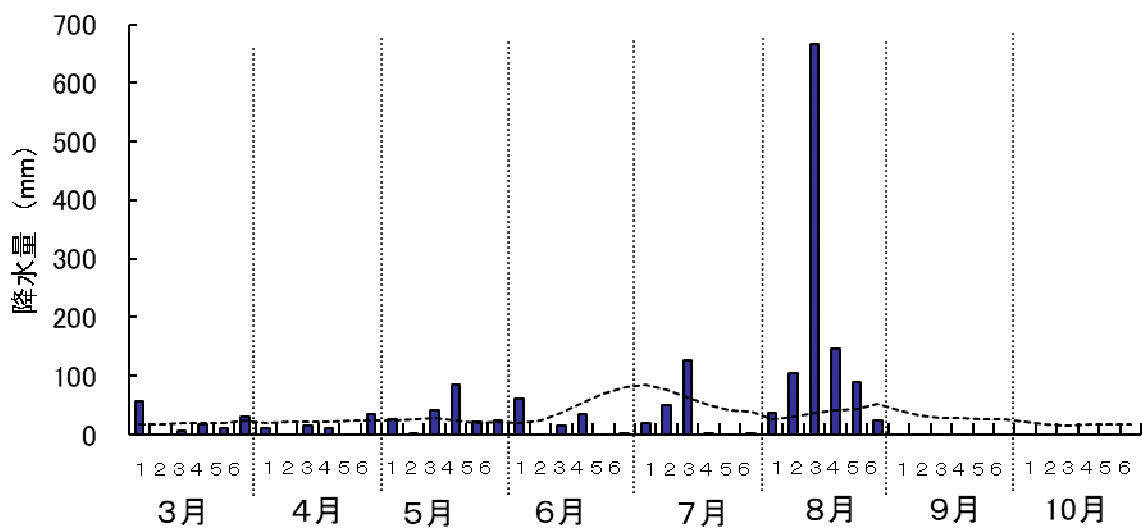
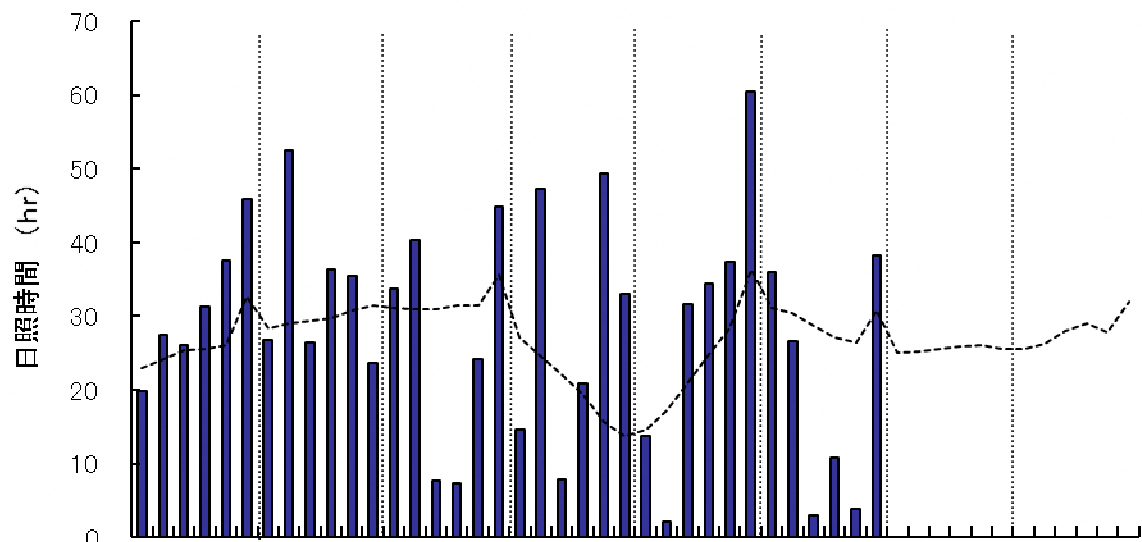
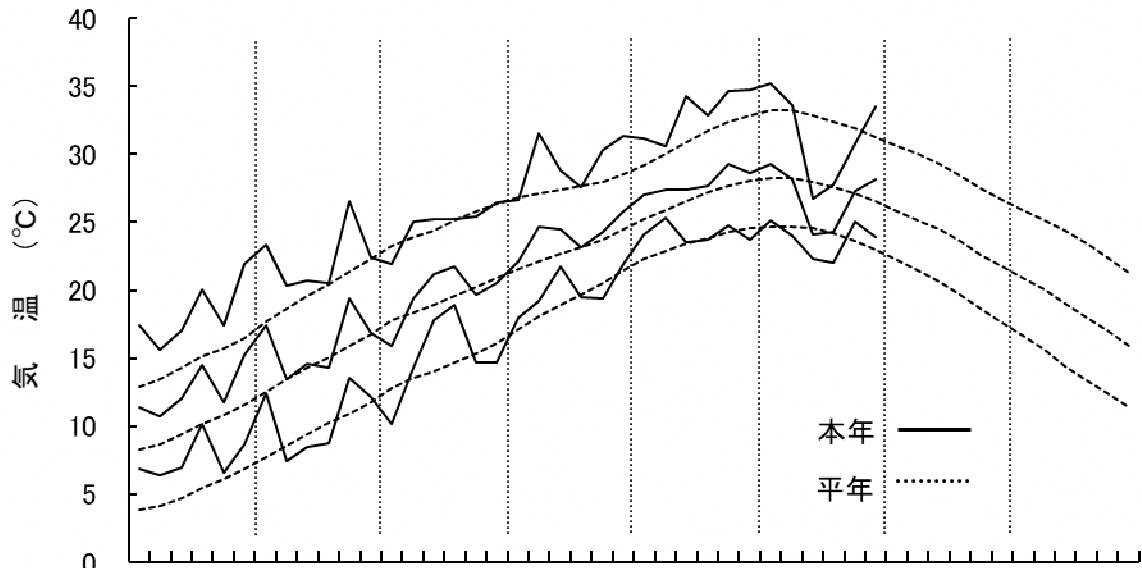
- ・ハスモンヨトウは、各地に設置されているフェロモントラップの誘殺数とほ場での白変葉の発生状況を総合的に判断し、適期防除を実施する。
- ・カメムシ類と紫斑病は、開花後25～30日頃に防除を実施する。
- ・葉焼病の発生に留意し、発生に応じ防除を実施する。

（2）排水対策

- ・降雨後に停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、本暗きよの栓をあけて排水するとともに畦溝や排水溝の整備を行う。
- ・乾燥が続く場合は本暗きよの栓をしめ、乾燥防止に努める。

（3）雑草対策

- ・大豆の生育量が少ないほ場や中耕・培土が実施できていないほ場では、雑草の多発生が懸念されるので、防除が必要な場合は早めに畦間処理除草剤を散布する。



2021(令和3年)夏作期間の気象 (太宰府アメダス)